



さいかい

2017.1
vol **101**
winter



Contents

地域発！作業療法士

お母さん OT へのエール

ねんりんピック長崎報告

協会 50 週年事業報告

地区啓発活動報告

全国学会報告

精神分野トピックス

当会理事より

特集1
県学会へ
行こう!!

特集2
MTDLP
実践者研修
修了のすすめ

特集1 県学会へ行こう！

企画紹介 県学会実行委員からのおすすめポイントを紹介します！

◆ 活動と参加ー異業種から学ぶ、OTに深みをー

作業を治療に用いる作業療法。あなたが提供する作業は、あなたの生活経験に基づく独自の方法ではありませんか？その道の専門家から得た学びが、クライアントの活動と参加につながるとしたら・・・。

【ひとと楽器】

講師は和楽器店を営む平野慶介さんです。皆さん、和楽器のこと知っていますか？触れたことはありませんか？「太鼓や琴」だけではありませんよ。長崎県内に和楽器店は3軒しかありませんが、平野さんは長年、長崎くんち等を通して和楽器を身近にする活動もされています。この機会に日本独自の世界に触れてみませんか？和楽器を通して作業療法の引き出しが増え、奥深くなると思います。

【ひとと食】

講師は九州調理師専門学校の副学園長、川島明子先生です。川島先生は長年調理師育成に携われ、長崎の食文化の研究や啓発活動にも関わられている方です。皆さんは調理活動でメニューを考える時、対象者の地域や職の歴史まで考慮していますか？作業活動に目を向けるだけでなく、ひとにとって「食」とは何か、この機会に一緒に学びましょう。また「介護食」についてもご紹介いただきます。きっと多くの方がイメージするそれとは異なるものです。

【ひとと化粧】

講師は資生堂ジャパン(株)の吉村由紀子さんです。吉村さんは「いきいき美容教室」や「化粧療法講座」の講師として福岡を中心に活躍されている方です。これは単に化粧をしてあげるのではなく、クライアントが自ら化粧をすることで自立支援につなげることを重視しています。「化粧とは外観を美しくすること」であり、性別に関係はありません。当日はデータをもとに化粧の持つ力についてお話し頂く予定です。男性の皆さまの参加もお待ちしています。



【ひとと住まい】

講師は純心大学准教授の飛永高秀先生です。飛永先生は居住概念や高齢者の居住支援などを研究されている方です。「住む」ことは生活の中でどのように位置づけ、意味づけされるのでしょうか。皆さんは、退院支援においてクライアントが戻る場所に、住生活史や家族・住まいとの関係まで配慮できていますか？「クライアントが心から居たい場所に戻れるよう、住まう」の根源に触れてみませんか。

【ひとと服飾】

講師はパーソナルスタイリストの徳光奈保子さんです。実は徳光さん、作業療法士でもあります。働くママを中心に障がいやハンディをもった方も「自分で選べるようになること」を目標に服選びのメゾットを伝授するため活躍されています。自分に合う素敵な服を着た日は心が弾みませんか？それはクライアントも同じであるはず。機能を重視しつつお洒落も楽しむ。そんなお手伝いができれば素敵ですね。



一般公開講座 **crisis -今自分にできること-**
講師：村井千賀氏（石川県立高松病院 作業療法士）

（一社）日本作業療法士協会は設立から50周年を迎えました。その記念事業として、村井千賀氏をお招きして今後の医療・福祉についてお話していただきます。厚生労働省でMTDLPの開発や生活行為向上リハビリテーション実施加算の設置などにご尽力された村井氏のお話は、今後の作業療法士の道標かもしれません。ともに住みよい環境で自分らしく生きていくことについて学び、考えていきましょう。多くの一般の皆さまのご参加もお待ちしています。

特集1 県学会へ行こう！

プログラム

1日目：平成29年3月18日(土)

2日目：平成29年3月19日(日)

	第1会場	第2会場	第3会場	Cafe space
9:00	OT受付			
9:45	開会式			
10:00	特別企画 活動と参加 -ひとと業務-	運動療育1	訪問・在宅 家族支援1	
10:30				
11:00	11:10 休憩	11:10		
11:30	特別企画 活動と参加 -ひとと地域-	訪問・在宅 家族支援2	運動療育2	
12:00	12:10	12:10		
12:30	昼休み			支援施設カフェ A
13:00	特別企画 活動と参加 -ひとと業務-	調査・研究	精神障害1	
13:30				
14:00	14:10 休憩	14:10		
14:30	特別企画 活動と参加 -ひとと住まい-	MTDLP	脳血管疾患1	
15:00	15:40	15:10		
15:30	15:50			
16:00	特別企画 活動と参加 -ひとと食-			
16:30				
17:00				
17:30	17:20			
18:00		1日目終了		
18:30				

レセプション(会場：ベストウエスタンプレミアホテル長崎)

レセプションの
申し込みもね！



	第1会場	第2会場	第3会場	Cafe space
9:00	OT受付			
9:30				
10:00	活動紹介 ロリーポップネットワークとその活動	学生参加型 事例検討会 OTの感性を磨く、 育む、そして...	難病認定発表	
10:30				
11:00	11:10 休憩	11:10		
11:30	地域包括ケアシステム講座 いまさら聞けない 地域包括ケアシステム	脳血管疾患2	精神障害2	支援施設カフェ B
12:00				
12:30	12:40	12:10		
13:00	昼休み 一般受付13:00~			
13:30				
14:00	一般公開講座 OTとは -今自分にできること- 村井千賀氏			
14:30				
15:00				
15:30	15:40			
16:00	閉会式			

2日目終了



就労支援事業所の
出店があります。
お立ち寄り下さい☆

◆ 地域包括ケアシステム講座 講師：沖 英一 氏，淡野義長 氏

平成29年度には本格始動する地域包括ケアシステム。正直まだ良くわからない。でもいまさら聞けない。大丈夫！基本の「き」から教えます！

◆ ロリーポップネットワークとその活動紹介

当事者の自主グループであるロリーポップネットワークの活動を紹介します。
「退院後、家から外に出てみんなで一緒にどこかへ行って冒険しよう！」
そこに至るには作業療法がありました。あなたのクライアントを「活動と参加」
につなげるためにヒントをもらい、共に考えませんか？

◆ 教育企画 学生参加型事例検討会

県内3校の長期実習直前の学生を対象とした事例検討会を開催します。会員全体
で学生が臨床推論を理解するプロセスをサポートしましょう！学生の現状を理
解・共有することで、今後の実習指導に活かせるはずです。

※ 学会参加の事前申し込みのお願い

県士会ホームページの学会ページよりお願い致します。
(<http://www.nagasaki-ot.com/gakkai/>)
事前登録期間は2月1日～3月11日まで。



第24回長崎県作業療法学会実行委員会



地域における子ども達への支援 ～切れ目のない支援を目指して～



松浦市役所 子育て・こども課
作業療法士 前田 史織

松浦市は、長崎県北部にある人口約23000人、年間出生数は約180人の小さな街です。豊かな食に恵まれ、中でもアジ、サバの漁獲量は日本有数です。また、海底から、元寇で沈んだ軍船の一部が見つかり、日本で初めて海底遺跡が国史跡に指定されました。豊かな食と歴史ある自然に加え、小さな街だからこそ、子育て支援サービスや顔の見える支援が充実した、子育てしやすい街です。

～はじめに～

平成15年の春、新しく出来る児童発達支援事業所の立ち上げスタッフの一人として私は松浦市にやってきました。質の高い療育を提供できる施設をめざし、スタッフと試行錯誤をしている中、平成20年に松浦市役所での仕事の話をいただきました。その当時は、嘱託職員という立場でしたが、『市に発達障がいの支援・相談窓口の一本化をして欲しい』という親たちの思いを受けてのことでした。発達分野専門で市役所にOTを雇用することは、県内でも初めてだったのではないかと思います。更に、平成24年には正規職員として雇用が決まり、現在、発達障がいに関する支援や相談・療育を中心に日々、悪戦苦闘しています。

～行政OTとしての仕事～

母子保健事業(1歳6か月健診・3歳児健診・5歳児健診など)への従事、保育施設・学校訪問・相談、放課後児童クラブ訪問・相談、児童発達支援事業所への技術支援、就学相談、療育相談など多岐にわたります。どのライフステージにおいても、情報の集約・提供や関係機関とのつなぎ、親の相談相手として、OTが関わりをもてるようにしています。子どもや親に今必要な支援方法や相談先、情報をコーディネートしたり、提供したりする仕事をしています。今回はその中の一つ保育施設との連携について紹介したいと思います。

～保育施設との密な連携～

早期発見、早期療育がうたわれる中、『早期発見の場合は健診会場だけではないのではないか』、そして『療育する場も療育施設だけではないのではないか』という視点に立った時に、保育施設との密な連携が早期発見、早期療育のポイントになると考えました。松浦市では、市内16か所の保育施設すべてを対象に、OTによる巡回訪問を定期的に実施しています。この巡回訪問を活用して、①気になる子ども達の情報交換・収集を行い、②健診で保健師と保育施設との情報を共有、③健診の中で、保健師が保護者に保育施設での子どもの様子をふまえた聞き取りを実施、④気になる子の保護者にOTの巡回訪問の許可を取り、⑤OTによる巡回訪問を実施、⑥保育施設に子どもや親の支援方法を指導⑦保育施設での対応以外にも療育などが必要と判断した場合に保護者に相談機関や医療機関を勧めていくという流れを作っています。保育施設との密な連携の成果もあり、健診で気になった子どものフォロー率は、1歳6か月健診で約10%前後、3歳児健診においては30%前後で、県内でも高いフォロー率になっています。フォロー率が高ければよいというわけではありませんが、『気になる子』の段階で適切な関わり、支援を一番身近な保育施設で実施してもらうことは、集団適応能力をつけるためや適切な就学支援につながるための早期療育のスタートであると感じています。

～おわりに～

相談窓口の担当はOTでなくてもよかったのかもしれませんが、『生涯、その人らしく生きることをサポートできる職業』それはOTです。切れ目のない相談窓口の専門家として、OTでよかったと思ってもらえるような相談員として、これからもこの小さな街で頑張っていきたいと思っています。

「ささえ人 ささえられる人」 ～南島原市におけるOTの地域活動～

医療法人 博愛会 哲翁病院 中川 佳苗



中川です。

【ささえさんの会】

私は、今年度より南島原市口之津町で

【ささえさんの会】というお年寄りと若い世代を結び、認知症になっても、みんなで支え合う街づくりを目指して頑張っているボランティア団体に参加しています。

＜今年度の活動内容＞

7月：OTによる認知症についての講話

9月：施設慰問（バルーンアート・紙芝居）

11月：自主グループ（一般高齢者）タンポポ会の皆さんと小学生の皆さんでと共に焼き芋会・紙飛行機大会

12月：地元中学校での人権集会で高齢者福祉の観点から「人権」についての学び寺子屋「サポートキッズ」など、様々な活動に参加してきました。



会の皆様と児童による合同活動の様子です。

参加して、まず思ったことは「こんな感覚は絶対に病院では味わえない！」という嬉しくもあり、今まで知らなかった自分に寂しい気持ちでした。

ささえさんの会で、講話や活動の時に、7、8人でグループワークを行います。

グループワークでは、大集団では話せない自らの困りごとや、気になることを積極的に話すことができ、同じ事例で悩んでいる方の声を聴くことで安心して帰られる方もいらっしゃいます。

また、子どもと高齢者のふれあいが減少してきていることを実感しました。

ささえさんの会の塩田会長は【同じ地域に住む全ての人に、認知症の正しい理解、高齢者と子ども達の交流の素晴らしさを報せたい。そして、みんなで住み良い街にできたら嬉しい。】といつもおっしゃっています。

地域の小さな繋がりを大事にし、子供から大人また高齢者とお互いにささえあうということをこれから作業療法士としてこういった支援ができるのかとても楽しみです。



施設慰問の様子です。



会を支える地域の皆様と記念撮影

日本ALS協会 長崎県支部への関わりを通して

長崎北病院 作業療法士 武田 芳子

【筋萎縮性側索硬化症（ALS）とは？】

主に中年以降に発症し、一次運動ニューロン(上位運動ニューロン)と二次運動ニューロン(下位運動ニューロン)が選択的にかつ進行性に変性・消失していく原因不明の疾患です。平成25年度の特定疾患医療受給者数によると全国で約9,200人がこの病気に罹患しています。

【症状】

筋萎縮と筋力低下が主体であり、進行すると上肢の機能障害、歩行障害、構音障害、嚥下障害、呼吸障害などがみられます。病勢の進展は比較的速く、人工呼吸器を用いなければ通常は2～5年で死亡することが多いと言われています。

【日本ALS協会（JALSA）とは？】

「ALSと共に闘い、歩む」ことを趣旨とした非営利団体として1986年に設立しました。

会員は患者・家族・遺族が中心ですが、医療専門職、介護関係者、行政職員、研究者、一般市民も数多く入会しています。現在の会員数はおよそ5,000名、全国に41の支部があります。2012年に一般社団法人となり、2016年に設立30周年を迎えました。

【長崎県支部について】

2006年、長崎県支部が設立しました。

活動内容は、①集いの開催：年3回（長崎北病院・県央保健所・川棚医療センター）②研修会・講演会の開催③患者作品を集めたカレンダー作り

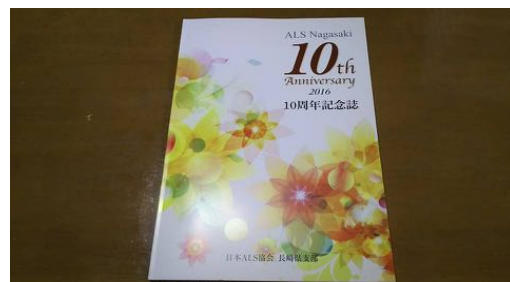
④支部ニュースの発行⑤患者宅への家庭訪問などを行っています。

2016年11月27日に設立10周年記念式典・記念誌発行を行いました。



～ 長崎県支部 設立10周年記念式典 ～
放浪の合唱作曲家
弓削田健介さんを迎えての記念講演

YouTubeで
「日本ALS協会長崎県支部 10年間の歩み」
を閲覧できます。
このタイトルにて検索してみてください。



～ 支部設立10周年 記念誌 ～
多くの関係者から寄稿文や
これまでのカレンダー作品などを
掲載しています。

【私とALS患者との出会い・関わり】

長崎北病院の入社1年目。初めてALS患者さんを担当しましたが、知識不足で十分なりハビリテーションが行えなかったことが心残りでした。

その後、訪問看護ステーションひまわりに勤務となり、ALS患者さんを担当しました。

身体機能の訓練はもちろん、人工呼吸器管理を方が多かったため、コミュニケーション方法・機器・環境制御装置の選定や操作の指導、余暇活動（手工芸・外出支援）など、様々な支援を行ってきました。関りの中で、病気になって、ショックや悩みを抱えている患者・家族に対して、ピアサポートの必要性を感じていました。

2005年名誉支部長である泉清隆さんが支部の立ち上げを行うと聞き、設立準備会より活動に参加させて頂きました。それから10年、多くのALS患者・家族と出会い、病気の苦悩を分かちあいつつ、その中で、希望や笑顔を見出しながら、共に歩み続けています。



～趣味活動の支援～

今の能力を最大限発揮できる作業活動を提案します。



～つどい・研修会・講演会～

患者さん(人工呼吸器装着) への外出の場となっています。

【支部での役割】

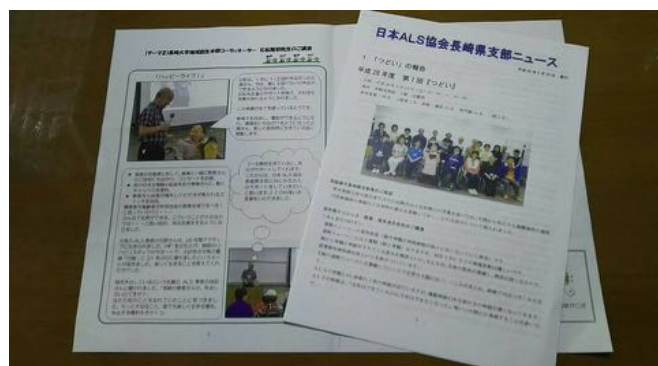
作業療法士の専門的な知識や技術を生かして、

- ①集いや家庭訪問で患者・家族の悩みや相談業務
- ②コミュニケーション方法やコミュニケーションエイドの選定の助言
- ③つどい・研修会・講演会の企画・運営
- ④カレンダー参加への呼びかけ
- ⑤送迎などの外出支援

ALS患者さんのご紹介、カレンダー作品、一緒に支部の活動を支援してくれる方をいつでも募集しています。
気軽にご相談、ご連絡を！！
お待ちしております。



～患者さんの作品を集めたカレンダー～
OTからの立案で開始され、2017年で10冊目。
「生きた証」ともいえるカレンダーです。
2年前より大分支部の患者さんからも参加したいとの申し出があり、広がりを見せています。



～支部ニュース～

会員の方へ支部の活動や最新のALS情報を発信しています。

お母さんOTへのエール

耀光リハビリテーション病院 山下さつき



私が作業療法士の資格を取得して18年になります。今回はお母さんOTへエールという題材で依頼を受けました。私がおくれるエールは少ないのですが、皆様から頂いたエールを書いてみたいと思います。

私は、結婚も遅く子供にもなかなか恵まれず、今、やっと2歳の子供の育児が出来ています。妊娠が分かって今まで多くの人に支えられて仕事をしてきました。妊娠中は、私が無理を知ってか否か職場の仲間達は、私が無理をしようとするのを駆けつけて手伝ってくれ、感染症が流行れば、感染してはいけないとフォローをたくさんしてくれました。産休に入る日にはケーキを囲んでお祝いもしてくれました。出産前、入院をすると毎日のように顔を出してくれるOT仲間もいました。温かい仲間を支えられて無事に出産し、産休、育休を経て職場復帰させて頂きました。復帰の前は、先輩お母さんから、「初めは子供が病気をするので休むの覚悟で復帰してくださいね」とのコメントを頂き、復帰してからは、先輩お母さんの言うとおり休んでばかりの私をフォローしてくれました。職場の仲間は、大変さは表に出さず、「お子さん大丈夫でしたか？」と気遣ってくれます。私が忙しそうにしていると、「ちゃんと帰れますか？手伝うことはないですか？」と声をかけてくれます。子供の入院で長期間休みをとることになると、「皆を信じてゆっくり休んで」とお父さんOTに励まされ、今こうして仕事が出来ています。数ヶ月間は、フルタイムの8時30分～17時30分の勤務をしていましたが、子供との時間はなかなか作れず、今は、8時30分～16時15分の育児短時間勤務を利用させて頂いています。17時前後には保育園へお迎えに行けるので、園庭で遊ぶお友達のお母様方とのコミュニケー

ションを図れたり、滑り台を滑れるようになった、お友達ができた・・・など子供の成長を日々感じる事ができます。一方で、子供の体調が優れないときは、その日のうちに病院受診ができます。勤務は日曜日、祝日もありますので、その際は、夫の出番です。子供を色々な所に連れて行ってくれています。今日は動物園、次は水族館、実家の畑・・・など私が勤務の日曜日、祝日はいつもおでかけです。

子供が出来て、私の生活は大きく変わりました。今までは、あまり人に頼らず、残業も多かったのですが、今は、時間内に終わらせること、いつ休んでも人に迷惑をかけないように前もってやっておくこと、仕事は持ち帰らないことが鉄則です。それでも、うまくいかないこともあります。その時はちょっぴり人に頼ることもできるようになりました。今、私ができること・・・ほんのわずかですが、隙間時間を使って出来る仕事を頂くようにしています。それが、お世話になっている方々への恩返しにつながればと思っています。育児と仕事の両立が出来るのは、本当に温かい職場の仲間のおかげです。私が支えてもらっているように、私も人を支える良いお母さんOTになれたらと思います。



第29回全国健康福祉祭 ねんりんピック長崎 2016 ～長崎で ひらけ長寿の 夢・みらい～ 活動報告

上戸町病院 桑原太志

『第29回全国健康福祉祭ながさき大会ねんりんピック長崎2016～長崎でひらけ長寿の夢・みらい』が2016年10月15日～18日で開催されました。作業療法士会として、15日～17日までの3日間県立総合体育館にて開催された健康フェアにてブースを出展しました。

1年以上前から会議を行い準備してきました。

企画内容としては、

1. OT啓発活動として、OTの関わりのマンガなどの展示やリーフレットの配布、OT協会作成のDVD「二本の傘」の上映

2. 自助具の展示として、100均でできる手作り自助具と既製品の自助具の紹介と自助具のクイズ

3. こころの状態、認知症チェックを1日14～16名のスタッフで行いました。自分は2・3日目に要員として参加しました。ブースの近くでイベントが行われていたことや、手作りのゲームと景品にお菓子を準備したことで幼児から高齢者の方まで幅広く、正確ではありませんが3日間で約500人以上の来場がありました。

自助具では、100均で買えるもので作れる自助具など展示物も使用方法を実演することで興味を持ってもらうことができ、「今後役に立つ」と言ってもらえるなど、自助具の展示も好評でした。イベントがない時間帯での来場者が多く大変でしたが、イベントがあっている時間一息つけて、スタッフもみんなでそれを見て談笑し楽しく行えました。

ブース内の展示物や自助具の説明など行っているとまだまだOTに対する認知度の低さを実感することが多かったです。そのような中でOTになりたいという小～中学生くらいの子供さんや「子供に勧めたいからどうしたらなれますか」と質問をされる方もいてOTに興味を持っていただくこともできました。今まであまりこのような活動に参加したことがありませんでしたが、今回初めて企画立案から参加させていただき、みんなでやる準備の楽しさ大変さを感じながら他の病院の先生方と交流もでき色々な意見や体験なども聞くことができ、OTについて話せてとてもいい機会になりました。もっとOTについて話していき、OTの役割の広さと良さをもっと広めていけたらと思います。



OT漫画と自助具の展示を行いました。



自助具をきっかけにOTの仕事について話すことができました。



心理検査にも多くの方が参加されました。



最終日にスタッフで記念撮影

佐世保地区作業療法啓発活動 (日本作業療法士会協会50周年記念事業)

佐世保北病院 日南 雅裕



平成28年11月27日（日）、今年度は日本作業療法士協会設立50周年記念事業として、イオン大塔店にて啓発活動を開催。「バランスボールに乗ってお菓子釣り」「革細工でしおり作り」「TMT検査」を行いました。興味をもって足を止めて頂く方が多く盛況裡に終えることができました。しかし、啓発活動を通して“作業療法”という言葉の市民への定着はまだまだといった印象を受けます。こういった活動の継続が作業療法の認知度、理解の深まりに寄与できればと考えます。

最後にお忙しい中、啓発活動の企画・運営に携わって頂いた関係各機関の皆様、ご協力ありがとうございました。



平戸市健康福祉まつりの報告

平戸市立生月病院 前川 俊太



平成28年10月30日曜日に平戸文化センターで行われた平戸市健康福祉まつりに作業療法相談コーナーの一員として参加させて頂きました。私はこの活動に6回目の参加となり、今年は運営責任者として普段よりやや責任感を感じながら参加させて頂きました。以下に感想を交えながら報告させて頂きます。

この活動は毎年平戸・松浦地区の作業療法士の方々と協力しながら地域への作業療法の啓発を目的に行っています。事前の企画会議では当日の内容についてそれぞれの熱い想いも交えながら話し合いを行いました。今年は体験を交えながら啓発活動を行うということになり、片腕だけの更衣動作体験と自助具での豆つかみ体験を行うことにしました。当日は各施設の10名のスタッフと協力して活動を行いました。

開場時から子供を中心に幅広い世代の方々に来場して頂きました。各体験の前にはスタッフによる説明を行う場面があり、ここでは日頃の臨床で発揮されている説明力が生かされていました。来場者が子供の際は「片腕で着替えをする時はどうするでしょうか」と楽しめるように説明を行ったり、麻痺のある方が来場された際、「脳梗塞になってから手伝ってもらわないとご飯が食べられません」と下向きな話をした時、「箸にも様々な種類があって自分に合ったものを選んで正しい使い方をすると麻痺があっても1人でご飯が食べられることもあります」と残存機能を生かした体験をして頂いたりと各来場者に合わせて満足いく活動が出来るよう工夫を凝らしていました。

また、作業療法士に興味がある高校生が進路相談に来る場面や家族の介護をしている方が悩み相談に来る場面などもありました。活動が終わり集計すると150名と多くの方々に来場して頂き、スタッフにはやや疲労感がありながらも満足のいく活動が出来たと思います。

平戸市は高齢化率37.0%(全国26.0%)と非常に高く、地域ケア個別会議や介護予防教室、地域資源の発掘といった地域包括ケアへの取り組みが進められ、私たち作業療法士もアドバイザーや講師として地域で活動する機会が増えています。健康福祉まつりように地域の方々に啓発活動を行い、様々な意見を聞けることは地域へ携わっていくにあたって貴重な体験だと考えます。これからも出来る限り地域での活動に参加し、住民の方々の健康づくりに貢献出来るよう日々精進していきます。

作業療法地域啓発活動報告 (日本作業療法士会協会50周年記念事業)



介護老人保健施設 うぐいすの丘 大町 美咲

平成28年11月12日(土)に大村市総合福祉センターにて今年で3回目となる「いきいき健康教室」を開催しました。振り返りや感じたことを記載させていただきます。

今年は「認知症について一緒に考えましょう」をテーマに、初めの30分認知症についての講演を行いました。その後3ブース①運動型脳トレ②思考型脳トレ③作業活動(消しゴムはんこ)に分かれ、移動時間削減と各ブースを体験できるよう受付時に3グループに振り分けを行いました。

参加者は認知症の人と家族の会さん含め、49名でした。活動終了後のアンケートでは半数の参加者が作業療法士を知っていると回答があり、そのほとんどの方が接した機会があることがわかりました。楽しかった、勉強になったとの声が多く聞くことができました。

私は初参加でしたが、とても充実した時間を過ごすことができました。作業には動機付けから始まり情報収集・評価・判断し、試行錯誤しながら実行していきます。これは、皆さんが生活や仕事において自然に行なっていることだと思います。地域の方に作業療法の必要性を感じてもらうために、動機付けをしっかりと行い、本活動のように地域発信できる場に参加していこうと思いました。



しまばら福祉祭り

哲翁病院 宮地 詩織

平成28年11月20日(日)に島原復興アリーナにて健康しまばら福祉まつりが開催され、認知症予防として、パワーポイントを使用した脳トレを行った。80歳までの男女約50名の方が参加された。島原半島は介護保険保有率が高く認知症予防のニーズが高い。地域の方の認知症予防への理解を広げるために、作業療法士が身近に感じる場所で声を聴きしていきたい。



第50回日本作業療法学会に参加して

介護老人保健施設 うぐいすの丘 青野 真琴



日本に作業療法士が誕生して51年目、職能団体としては50周年を迎える本年、「半世紀の実績と将来の展望～日本の作業療法を拓く～」のテーマのもと、第50回の日本作業療法士学会が北海道にて開催されました。今回は学会アプリからプログラム等のダウンロードを行い、スケジュール管理や抄録検索も簡単に行うことができ、自分の興味があるセッションや演題を検索しながら、3つの会場を行ったり来たり、3日間充実した学びの時間を過ごすことができました。

私は生活行為向上マネジメント（MTDLP2-2）にて口述発表の機会をいただき、

「介護老人保健施設における生活行為向上マネジメントを用いた作業療法の実践例」として介護老人保健施設での重度介護者（要介護5）の方の食事動作への介入を行った事例を報告しました。生活行為向上マネジメントに関する発表は入場制限がされる会場もあるほどで、今回の学会での注目度の高さを感じました。私は初めての学会発表で緊張が大きかったのですが、白岩先生から父親の授業参観さながらの心配とフルサポートをいただき、無事に口述発表を終えることが出来ました。発表後に、何名かの先生に声をかけて頂き、個別の質問や励ましの言葉をいただきましたが、利用者を中心として多職種が協働できる職場環境があってこそ自分はやりたい取り組みが出来ていると改めて感じる機会になりました。また、こうしてケースを文字として残すことで、自分の作業療法の振り返りが出来たことも大きな収穫だったと思います。



学会での発表やセミナーで、様々な先生方の考え方やアプローチの仕方を知り、多くのことを学びました。特に生活行為向上マネジメント関係での学びとして、同意と合意の違いを改めて考える機会になりました。対象者の大切に思う作業や生活行為に接するためには、対象者との十分な思いの共有が大事となり、目標に対する合意形成を忘れないことが大事だと改めて実感しました。私も臨床3年目になり、日々の仕事に慣れてきたと同時に、自分がうまく出来ないことばかりに目が行き始め、対象者との関わりに悩んでいる時期に“合意目標”という意味を考え直す機会をいただき、自分自身が丁寧な聞き取りを十分に行って、作業ニーズの引き出しの工夫をもっと頑張ってみようと、やる気を貰いました。

最後に学会は学びの場であり、出会いの場でもありました。全国の各分野の先生方に会い、自分の悩みにアドバイスをいただいたり、事例報告では聞けない日々の臨床の話をつかぐ機会を得ることができたことで、たくさん励まされ勉強になりました。



< 当院の概要 >

当院は、昭和34年に「諫早精神科病院」として開設後、平成 14年に「あきやま病院」と改称し、敷地面積34,463m²の現在地に移転しました。施設は美しい自然に囲まれた高台に位置し、南仏のホテルをイメージした設計で、ストレス社会や超高齢社会に対応すべく機能分化した構造となっています。

病床数は354床で、認知症治療病棟（58床）、精神科一般病棟（60床）、精神科一般病棟〔高齢者〕（60床）、精神科療養病棟（60床、58床）、アルコール・ストレスケア病棟（58床）の6病棟があります。また、地域医療サービスとして、精神科デイケア「Ami」や精神科訪問看護などを提供しています。病院理念を「人にやさしく、自然にやさしく、地域に根ざした病院」として、地域の方に安心してご利用いただける病院を目指しています。

リハビリテーション部では、作業療法課を含む医療技術、医療福祉相談、デイケアや訪問看護など地域支援の3業務を管轄しており、作業療法士、精神保健福祉士、看護師、臨床心理士、臨床検査技師など20名が所属しています。作業療法士は常勤7名、非常勤1名の計8名で、業務内容は、各病棟担当が6名、デイケア担当が1名、リハビリテーション部全体の統括業務が1名となっています。

< 作業療法課の特徴 >

当院では、統合失調症や気分障害、精神遅滞などの治療のほかに、認知症やアルコール・ストレスケアの専門治療を提供していることが特徴です。認知症治療病棟では、対象者の生活場면을重視して、多職種が協働で一日を通してリハや適切なケアを提供できる体制作りを力を入れています。アルコール・ストレスケア病棟では認知行動療法の考えに基づき、飲酒や問題行動の原因となる「認知面≡考え方の偏り」に介入できるよう大集団プログラムを中心に、個別や小集団プログラムを交えて提供しています。精神科一般病棟や療養病棟では、プログラムをICFに沿って整理し、対象者の状態に応じて集団・個別プログラムを提供しています。また、多職種や他部門との協働を重視しており、病院内外のカンファランスや地域移行支援へも積極的に関与しています。

こうした取り組みを通じて、作業療法士の役割を明確にしながら位置づけを強固にして、当院の医療サービスに貢献したいと考えます。



< 作業療法プログラム >

最後に各担当OTに一押しのプログラムを聞いてみました！

認知症治療病棟：認知活性化療法

精神科一般病棟：個別心理教育（うつ、双極性障害、統合失調症など）

精神科療養病棟①：ポプラの会（少人数の退院支援プログラム）

精神科療養病棟②：ストレッチ体操（DVDを使った分かり易い体操）

アルコール・ストレスケア病棟：ビデオ学習会（アルコール依存症者への大集団心理教育）

精神科デイケア：料理活動、フリータイムの麻雀(笑)

当会理事より

平成28年度も残りわずかとなりました。本誌では、4名の当会役員に今年度活動を振り返って貰い、今後の活動についてコメントをいただいています。是非ご一読いただき、当会活動を把握する一助にしてください。

副会長 永石 博範

(介護老人保健施設フォンテ)

前園副会長と共に副会長を務めさせて戴いております永石博範と申します。

雲仙岳麓の南島原市にあります老人保健施設に勤務し、20数年が経ちました。島原地域における介護保険領域を中心に携わらせて戴いております。

副会長の役目としては、会長の補佐と会員の皆様が活動しやすいように、お手伝いすることだと思っております。

今年度の活動としては、保健予防委員会担当理事や他団体合同の研修会等に関わらせて戴きました。実務的には、予防委員会や研修会実行委員会の皆さんが、頑張られておられますので安心して、お任せしています。

新たな動きとして、作業療法士協会が今年度より取り組んでいる「認知症の人の生活推進委員会」と県士会の窓口として認知症作業療法推進委員を仰せつかりました。委員会の主な目的としては、地域で働く全ての作業療法士が「認知症の人」と関われるように基礎知識の習得及び、実際に「認知症の人」と関わっている皆様の活動事例収集の2点です。県士会としては、第一歩として来年度から認知症に関する「アップデート研修」を開催する予定です。この活動に興味のある方や協力して戴ける方は、お声かけして戴くと幸いです。

教育局 片田 美咲

(介護老人保健施設 にしきの里)

教育局の仕事は、現職者共通研修及び現職者選択研修開催が中心です。今年度の共通研修は、「事例報告」「事例検討」以外のテーマを、県北地域と県央・県南地域で各1回ずつ開催し、会員の皆様の参加の機会を増やしました。

また、これまでの生涯教育制度の改正により、「事例報告」の読替えが充実してきたことで、読替え申請をされる方も増え、「事例報告」修了者が増加しています。しかしながら、その影響もあり、共通研修における「事例報告」へのエントリーが開催必要数に満たず、今年度は中止する検討がなされたことも事実です。

実は、「事例検討」履修には読替え制度がなく、必ず「事例報告」への参加が必修です。つまり、「事例報告」が開催できなければ、「事例検討」の履修が出来ず、共通研修の履修修了者が増加しません。それは、今後の県士会活動の飛躍にブレーキをかけることとなります。そこで、会員の皆様への大切なお願いとして、まだ、「事例報告」の履修が済まれていない方は、来年度以降、できる限り「事例報告」での発表をご検討ください。

加えて、選択研修では、今年度入会者よりMTDLP基礎研修が必須となりました。しかし、昨年度までの入会者や選択研修受講修了者においても、受講が望ましいです。というのも、介護保険領域では、OT協会からの「MTDLP実践者証明書」がなければ、「生活行為向上リハビリテーション」の算定ができません。この「実践者証明書」の発行には、基礎研修受講後に、現場で実践し、その実践をMTDLPの事例報告会で報告することが必須となっています。現在は、介護保険制度内での展開ですが、この流れはいずれ、医療保険制度へ拡大していく可能性があります。いざ、算定要件になったときに慌てないように、各自受講し、実践し、報告し、「実践者証明書」の取得を目指していくことをお勧めいたします。

※SIGポイント申請及びお問合せ先→〒852-8045
長崎市錦2丁目1-1 にしきの里 片田迄

事業局 黒木 一誠

(長崎北病院)

昨年から事業局内に地域包括ケア対策部を作り、MTDLP班、地域ケア会議班、

認知症初期集中支援班、介護予防班の活動をすすめてきました。

MTDLPに関しては研修整備がすすみ、今年度は教育局と連携し進めています。地域ケア会議に関しては、理学療法士や言語聴覚士と足並みをそろえながら、研修や派遣などのシステム作りをしています。

今年度のスポットは認知症初期集中支援と総合支援事業へ移行する介護予防にあたっています。

これに関しては、行政と協力しながら、士会でも研修会を開催し、啓発と人材育成を進めていきます。

また、他団体に関しては、訪問リハや災害リハ、神経心理学的検査研修、在宅医療・福祉コンソーシアム長崎、作業療法士協会の50周年記念などもサポートしております。

これら事業局の動きは、現在整備中のHPにて紹介していきたいと思います。国の情勢と合わせてご確認頂き、会員の皆様お一人お一人が、今どう動くべきか、「来るべき時」に合わせ、事前に対応出来るように、今からアクションを起こしていきましょう。

県北地区担当 山口 勝史

(耀光リハビリテーション病院)

県北地区を担当しています耀光リハビリテーション病院の山口です。今年度の県北地区の活動としては、現職者共通研修を開催しました。また、今年度は日本作業療法士協会50周年ということもあり、イオン大塔様のフロアをお借りして、例年よりも盛大にOTの啓蒙活動を行い、たくさんの地域の皆様にOTを認知していただける機会となりました。いずれの活動においても、会員の皆様のご協力なしでは開催することができませんでした。この場を借りて、会員の皆様にお礼を申し上げます。ご協力ありがとうございました。

今年度、来年度も**盛りだくさんの活動**を予定していますし、**2年後は県北地区での学会**も控えるなど、今後お願いすることもあると思いますが、引き続きご協力を宜しくお願い致します。

2025年の超高齢化社会の問題が目前に迫り、世の中の情勢が大きく変わりつつある中で、会員の皆様が、少しでも利用しやすいような県士会の運営と皆様が輝ける環境づくりにできるように少しでもお力添えができるよう、できるだけ尽力していきたいと考えていますので、何か不明な点やご要望などありましたら、いつでもご連絡いただければと思います。

今後とも、長崎県作業療法士会の運営・活動において、ご理解とご協力を宜しくお願い致します。

編集後記

今回の内容は県のOT学会の紹介に始まり地域の活動から各領域の方の報告になっています。長崎県のOT県士会会員数も年を追うごとに増え、今回紹介しているように多種多様なチャレンジをされているOTの方も増えてきました。今回載せている記事の中でも、患者さんや利用者さんの生活の質にまで着目したMTDLPの考え方、小児や疾患の特異性に合わせた関わり方などはOTならではのアプローチだと思います。今後もOTの専門性や考え方を紹介・共有し、県OTの繋がりが感じられる広報誌にしていきたいと思っていますのでご協力のほどお願い致します。



特集2 MTDLP-実践者研修終了のすすめ-

事業局 地域包括ケア対策部 MTDLP班 貞松病院 中島 彩乃

生活行為向上マネジメント MTDLP とは

作業療法士の思考過程を見える化するために開発されたツールの1つです

＊事業局＊地域包括ケア対策部の「生活行為向上マネジメント班」のメンバーを中心に研修会の企画・運営を行っています



〈平成28年度 研修会など実施状況〉

基礎研修（現職者選択必須研修）

H28.8.7 長崎リハビリテーション学院

事例検討会

H28.5.29 耀光リハビリテーション病院

H28.11.06 長崎リハビリテーション学院

県士会会員数 1023名 *H28.12現在

基礎研修終了者 514名

実践者研修終了者 34名

事例検討会に 参加（聴講）しましょう！

皆さん、MTDLP実践者研修の履修方法をご存知でしょうか？左に示す通り会員の半数以上の方が基礎研修を終了されています。しかし実践者研修終了者は34名と少ない現状です。

「MTDLPは書類が多くて大変そうだな・・・」「使ってみたいけどまだよくわからないな」と思われている方も多いと思います。そんな方は一度事例検討会に聴講者として参加されてみてはいかがでしょうか？事例検討会ではグループに分かれて事例についての意見を交換します。事例のまとめ方についてのアドバイスはもちろんですが、それ以外にもOTとして大切なことに気づかされることが多くあります。本当にやりたいことを支援できているのか？生活全体を見通せているのか？と臨床を振り返るきっかけとなります。また、地域包括ケアシステムにおける作業療法士の役割の1つとして、MTDLPを用いて対象者の暮らしをみつめ、支援するみなさんへ提示できることが重要だと思います。2月に今年度最後の事例検討会が行われます。皆様の参加お待ちしております。

**＊MTDLP基礎研修は平成28年度より
現職者選択研修の必須研修となった**

＊MTDLP事例検討会への

参加条件：基礎研修終了者であること

**＊MTDLP事例検討会での事例発表は現
職者研修への読み替え可能＊要申請**

**＊平成28年度より「生活行為向上リ
ハビリテーション実施加算」を算定す
る場合**

**基礎研修＋実践者研修終了『実践者研
修修了証』を持つOTは算定可能**



<平成28年度 第3回MTDLP事例検討会のお知らせ>

平成28年度第3回MTDLP事例検討会を下記のように開催致します。

日時：平成28年2月26日(日) 13時30分受付 13時30分～16時予定

会場：道ノ尾病院 道ノ尾ホール

詳しくは県士会ホームページをご参照下さい。